

English follows Japanese

ルカによる福音書 1:67-79 アドベントの賛歌：ザカリヤの賛歌

今回のアドベントシリーズで2番目に見ていきたい箇所はルカによる福音書 1:67-79 です。ここにある賛歌はザカリヤという名の男によるものです。彼の妻エリザベツはマリアの親類でありましたから、彼はイエス・キリストの親類ということになります。聖書には、彼が祭司で主の神殿に入って香を焚くという一生に一度の奉仕をしていたことがまず書かれています。その時、主の使いが彼に現れて、妻のエリザベツが出産適齢期を過ぎているにもかかわらず妊娠することを告げました。彼がこれを信じなかったため、神は彼を話せなくしました。それで、その時から妻が妊娠中の9ヶ月の間、彼は何も話せませんでした。エリザベツの妊娠中、マリアはエリザベツに会って自分の妊娠を知らせ、先週見た賛歌を歌ったわけです。エリザベツとザカリヤには御使いの言葉通り男の子が生まれ、エリザベツはその子をヨハネと名付けました。集まっていた人々や親族は、親族の中にそのような名の人がいなかったため、その名は相応しくないと言いました。そこで彼らはザカリヤに意見を求め、書き板を持ってこさせました。彼は「彼の名はヨハネ」と書きました。このことは彼が真に従順であり、その信仰が完全であることの裏付けであり、この時から彼はまた話せるようになりました。その続きが67節からの箇所です。9カ月ぶりに語った彼の最初の言葉について次のように書かれています。「67. さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。」お祈りしてから、ザカリヤが何カ月もの沈黙の後に語った言葉を見ていきましょう。

この賛歌の前置きとなる67節からもう一度見てみましょう。「67. さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。」とあります。私たちはまず、これから読むことがザカリヤ自身の言葉ではないという事に注目しなくてはなりません。私たちは聖書の言葉は全て聖霊が人間の筆者を通して語られたものであることを知っていますが、ここでザカリヤが聖霊に満たされて預言したと明言されているのには理由があります。神の介入なしに、私たちが真に神を賛美することはできないということがここでは示されています。当然のことですが、私たちは罪人であり、神の恵みがなければ、神を喜ばせることなどできません。ここでは、自分の息子であるバプテスマのヨハネが果たすべき役割について、聖霊が彼に預言させました。けれど、それ以上に、ザカリヤの預言は息子であるバプテスマのヨハネについてだけでなく、イエスの誕生によってもたらされる素晴らしい救いの賜物についてのものでした。彼の言葉を見ていくと、息子の誕生ではなく、その後のイエスの誕生を待ち望み、それによってもたらされる救いの栄光が見えてきます。

この救いのテーマはザカリヤが語った68-69節に見ることができます。そこには「68. ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、69. 救いの角を私たちのために、立てられた。」とあります。ザカリヤは「ほむべきかな」という賛美から賛歌を始めています。そして、なぜ主を祝福するのか、神を賛美するのかを述べています。それは神がご自分の民を贖われたからです。贖いとは、代価を払って何かを買い戻すことです。この贖いは救いによってもたらされますが、ザカリヤはここで、神が救いの角を私たちのために立てられたと言っています。この箇所です。救いの栄光を見るために、この「角」という概念を理解する必要があります。新約聖書の中でこの言葉が使われているのはここだけですので、旧約聖書の中を見てみましょう。詩篇 92:9-10 に「9. 主よ まことに今あなたの敵がまことに今あなたの敵が滅びます。不法を行う者はみな散らされます。10. あなたは野牛の角のように私の角を高く上げ私にみずみずしい油を注がれました。」とあります。そしてミカ書 4:13 では、「娘シオンよ、さあ、脱穀せよ。わたしが、あなたの角を鉄とし、あなたのひづめを青銅とする。あなたは多くの国民を粉々に砕き、彼らの不正な利得を主のために、彼らの財宝を全地の主のために聖絶する。」とあるのと比べてみましょう。これらの箇所から分かるのは、これは明らかに楽器ではなく、動物の角に例えられる闘うための武器だということです。私たちの救いは、救いの角であるイエスが、私たちに代わって罪と闘ってくださるために得られるのです。それはイエスの十字架の死と復活によって得られました。コリント人への手紙 第一 15:55-57 に「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」56. 死のとげは罪であり、罪の力は律法で

す。57. しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」と記されることを可能にしたのは、イエスの罪との闘いでした。

今皆さんの頭にあるのは、「これがイエスの事を言っているとどうして分かるのか」ということかと思えます。ザカリヤは69節以降こう言っています。「救いの角を私たちのために、しもべダビデの家に立てられた。70. 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。71. この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。」ザカリヤの賛歌のこの部分では、自分の息子の事ではなく、メシアについて語っていることは明らかです。そのことは、最後にその焦点が自分の息子に向けられることで更に明確になります。しかし、この賛歌を聞いたユダヤ人にとって、この言葉は旧約聖書の多くの預言者によって預言されていた、何世紀にもわたって待ち望んできた救い主、メシアのことを指しているとすぐに理解できました。そうした重要な預言の一つが、メシアはダビデの家系から出なければならないというものでありました。このことが書かれている箇所の一つが詩篇132:11-12です。「主はダビデに誓われた。それは主が取り消すことのない真実。「あなたの身から出る子をあなたの位に就かせる。12. もしあなたの子らがわたしの契約とわたしが教えるさとしを守るなら彼らの子らもとこしえにあなたの位に就く。」イスラエルの歴史から、ダビデの子たちが神に従わなかったことを私たちは知っています。それで、当時のユダヤ人の理解は、メシヤが既に存在しなくなっていたダビデの王位を再び確立するのだというものでした。彼らは、イエスがこの世に来られるとき、どのような王として来られるのかを誤解していたのです。ですが、イエスが真にメシアであり、私たちを救うことができる存在であるためには、ダビデの家系に属するという預言が実現せねばなりません。そして、イエスは正にその通りの方でした。マタイによる福音書1章にあるイエスの系譜は次のように終わっています。マタイによる福音書1:16-17「ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。17. それで、アブラハムからダビデまでが全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代となる。」救いは預言の成就によってもたらされるもので、イエスはその預言を成就するお方でした。

キリストがお生まれになる何百年も前から私たちの救いが預言されていたのであれば、それは神が最後の最後に思いつかれたことでも、人々が神に従わなかった場合に人々を救うためのバックアッププランでもありません。それどころか、ザカリヤの賛歌を読み進めると、救いは長期にわたって結ばれていた契約の成就であることが分かります。72節には「主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。73. 私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。」とあります。この救いの角であるイエスは、彼を通して全地を祝福すると言われたアブラハムとの契約を果たすために来られました。そして、このアブラハムとの契約と来るべき救済者、メシヤというアイディアはエデンの園まで遡ることができます。アダムとエバが罰せられた時、神はサタンに創世記3:15で「わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」と言われました。ですから、神がアブラハムに彼の子孫を通して全地を祝福すると言われるのは、この約束を念頭に置いてのことなのです。この贖罪こそが旧約聖書全体が指し示す、キリスト、メシヤの到来なのです。ザカリヤはその賛歌の中でこのことを認めているのです。私たちが得た救いはなんと素晴らしいのでしょうか。契約や約束を通して、特定の人々に働きかけることを通して、その摂理により、この計画を注意深く進めて下さるとは、何と素晴らしい神でおられるのでしょうか。全て神ご自身が選ばれた人びとに救いを与えるためです。

救いには一つの通過点があります。多くの人にとって、救いはそこで止まってしまいます。神様が私を選んで下さったから、これで私は天国で神様と共にいられる。ありがとう神様！ですが、私たちの救いとは地獄から逃れることではありません。救いは正しい行いをもって神を反映し、人を恐れることなく神に仕えることができるよう、私たちを罪から解放するものです。74節からの部分で、ザカリヤは救いの全体像を私たちに示してくれています。「主は私たちを敵の手から

救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてくださる。75. 私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。」救いは私たちを解放し、恐れず、正しく、神に仕えることができるようにします。救いになくってはならないことですが、もし私たちがイエス・キリストへの真の信仰を持ち、イエスを自分の救い主として、また主として受け入れたならば、それは私たちの人生を変えるはずでありません。ペテロへの手紙第一 4:1-2 では、この人生の変化を次のように述べています。「1.キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。2. それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。」ですから、救いによって罪から解放された私たちは、神を畏れて生きるようになります。それはつまり神の御心と目的に従うようになるということです。神に従順に生きているならば、人や周りの状況を恐れる必要はないのです。ザカリヤは自分の息子であるヨハネのために、そのような救いに忠実な生き方を預言したのです。ヨハネは私たちが知っているバプテスマのヨハネとなり、イエス・キリストを真のメシアとしてユダヤ人社会に告知知らせる者となります。76 節を読んでみましょう。「幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え」ここに至るまでの全てが実際はイエスに関する預言であり、この賛歌の最後になって、やっと預言は実の息子であるヨハネに向けられたものとなります。ヨハネによる福音書（このヨハネとは別の人物です）1 章でも、バプテスマのヨハネについて基本的には同じ言葉で記されています。ヨハネによる福音書 1:6-8 「神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。7. この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。8. 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。」ザカリヤの賛歌は私たちの救いについての、信じられないほどの素晴らしさに焦点を当てたメッセージです。けれど、神は常に人を通して、その救いのメッセージを人々に伝えて来られました。その救いの中心でおられるイエスご自身についても、神はその真実を人々に示すためにメッセンジャーを用いられたのです。私は常に、救いは最初から最後まで全て神の御業であるという聖書の真実をお伝えするようにしています。神が救われる者をお選びになり、聖霊がその人を生まれ変わらせ、悔い改めに至る信仰を与えてくださるので、ローマ人への手紙 10:14 には本当に驚くばかりの記述があります。ローマ人への手紙 10:14 「しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。」神は人の説教の弱ささえお用いになり、つまり人間が他の人に福音を伝えることによって、人々の霊的な目を開き、イエス・キリストの福音を受け入れるようにされます。神は私たちを必要としておられませんが、救いの過程において私たちをご自身のメッセンジャーとして用いることを望まれるのです。それが、人々が神の救いについて聞く普通の方法なのです。

それがザカリヤが自分の息子に対してフォーカスした点です。ですが、もう一つ子どもを育てておられる方たちにお伝えしたい点があります。ザカリヤは自分の息子が神のご計画に従うことを明らかに望んでいました。クリスチャンの親であっても、自分の子どもに対する神の御心を心から望むことに消極的な場合が多々あるように思います。ザカリヤはこのことが息子にとってどのようなことを意味するのか知る由もありませんでした。最終的にヨハネは社会から拒絶され、その地域のローマの支配者に投獄され、首をはねられて人生を終えました。全て神の御心に従ったがゆえです。親である私たちは、子どもらが人生のあらゆる面において神の御心を求めるよう積極的に励ましているのでしょうか。子ども達がスポーツに参加したり、最高の教育を受けることを促すのと同じように、教会に参加することを促しているのでしょうか。最終的に、大人になってからの人生だけではなく、彼らの永遠にとって重要な事は何でしょうか。イエスはマルコによる福音書 8:36 で「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるのでしょうか。」と言っておられます。多くの親たちが、子ども達がたとえ全世界を手に入れても、霊的には魂を失うよう仕向けているのではないかと恐れています。子ども達は、私たち親がイエス・キリストを知り、愛するという最高のことにではなく、その他多くのことに目を向け、キリストの弟子としての成長を重視していないことを見えています。

そしてザカリヤは息子であるヨハネと私たちに託されていることを語ります。77節には「罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。」とあります。この救いのメッセージには罪と赦しという二つの基本的な概念が含まれています。私たちはそのどちらも省くことはできません。「神様はあなたを愛しておられ、あなたと関係を持つことを望んでおられます」とだけ伝えて、なぜ私たちが神との関係を持てずにいるのかについて語らないのは間違ったメッセージです。人びとに救いが必要な理由は、ローマ人への手紙 3:23にあるように「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができ」ないからです。私たちが伝えるのは単なる裁きのメッセージではありません。皆、神のみ怒りのもと、罰せられるべき罪人なのです。神の愛だけ、あるいは神のみ怒りだけに目を向けることは福音ではありません。この二つはどちらが欠けてもいけないのです。ポストモダンの福音主義において、J.I.パッカーが「サンタクローズ神学」と呼んだものが強く支持されています。これはいわば、神とは天にいる大きく幸せな存在で、皆を幸せにするために良いものを与えてくれるという考え方です。このような考え方は神を制限するものです。神を愛の神にしようとするあまり、人々は神を現実の生活に対応できない弱い人間の弱い似姿にしてしまったのです。人に必要なのはサンタクローズではなく、救い主です。罪を見過ごし、罪に対して善を与える神など、神ではありません。

私たちの罪がどれほど深いのか、それに対して神がどれほど義なるお方かを告げる、真の福音に応答するとき、人は78-79節に記されている救いの結果を体験するようになります。「78. これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、79. 暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」今日のアドベントのフォーカスは愛です。それは救いの中に完全に示された、神のご自身の子たちへの愛です。私たちは罪人であり、パウロがローマ人への手紙 7:24で自分自身を「私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」と言っているように、みじめな者であります。キリストを主とし、救い主として受け入れることなく生まれてきた自然な状態では、私たちは霊的な暗闇の中にあり、神と敵対する存在です。ですが、神はその愛ゆえに私たちが受けるに値しない優しさを持って憐れんで下さいました。神の憐みにより、私たちの罪は赦され、神との関係を回復できるだけでなく、神の子どもとしていただき、イエス・キリストの光の中に生きる者とされるのです。私たちの罪深い過去にではなく、神の義によって人生を歩むことができるのです。ですからパウロはローマ人への手紙 7:24にある自身の質問に25節で「私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します。」と言っているのです。私たちの救いはなんと素晴らしいのでしょうか。神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛されました。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。そのこと以上にクリスマスを祝う理由があるのでしょうか。（ヨハネによる福音書 3:16）祈りましょう。

Luke 1:67-79 The Songs of Advent: Zechariah's Song

This second passage I want to look at for our Advent series is found in Luke 1:67-79. The song or poem that is found here is sung by a man named Zechariah. He is actually an earthly relative of Jesus Christ through his wife Elizabeth who is related to Mary. The Bible tells us that he is a priest and when we first see him, he is ministering at the temple in a once in his lifetime opportunity of burning incense before God in worship. While he is doing that an angel tells him that his wife Elizabeth would become pregnant, even though she is past the child bearing age. He does not believe this and God takes away his ability to talk for his lack of faith. So from that point through 9 months of pregnancy, he is silent. It is during Elizabeth's pregnancy that Mary meets her to tell her of her pregnancy and then offers the song we looked at last week. Finally, Elizabeth and Zechariah's son is born, and as the angel prophesied, Elizabeth said his name was John. The gathered people and family protested that that name was not appropriate since no other family member was named that. At that point, they asked Zechariah what he thought and brought him something to write his answer on. He wrote "his name is John." This showed that his faith was complete by his total obedience, and at this point he could speak again. That is where we pick up with verse 67, as his first words after 9 months are introduced like this: **67 And his father Zechariah was filled with the Holy Spirit and prophesied, saying...** Let's pray and then look at what Zechariah said after so many months of silence.

Let's start again with verse 67 that introduces this song. **67 And his father Zechariah was filled with the Holy Spirit and prophesied,** We need to stop right here and make note that everything else we read does not come from Zechariah's own words. We know that everything in the Bible comes from the Holy Spirit speaking through human writers, but to have it pointed out very specifically that Zechariah is speaking under the filling of the Holy Spirit is there for a reason. There is a sense that without the influence of Divine intervention we cannot really begin to praise God as we should. Naturally, we are sinners and without God's grace we can't do anything to please him. In this case, the Holy Spirit was causing him to prophecy about the role that his son, John the Baptist would play in the story. But more than that, Zechariah's prophecy was not primarily about his son, John the Baptist, but about the beautiful gift of salvation that was coming in the birth of Jesus. As we look at his words, we see the glories of salvation that will be provided in the birth that he looks forward to, which is not the one that has happened of his son, but the one that is coming, of Jesus.

We see this theme of salvation introduced as Zechariah continues in verses 68-69. **saying 68 "Blessed be the Lord God of Israel, for he has visited and redeemed his people 69 and has raised up a horn of salvation for us...** Zechariah begins his song with worship, Blessed be the Lord! Then he goes right into why he is blessing the Lord or praising God. And the reason is that God has redeemed his people. Redemption speaks of buying something back, purchasing at a price. This redemption is provided by salvation, which is where Zechariah goes now, as he says that God ...raised up a horn of salvation for us! In order to see the glory of salvation in this passage, we need to understand this idea of a horn. This is the only place in the New Testament where the term is used, so let's look at it in the Old Testament. **Psalm 92:9-10 says For behold, your enemies, O Lord, for behold, your enemies shall perish; all evildoers shall be scattered. 10 But you have exalted my horn like that of the wild ox; you have poured over me fresh oil. And then compare it with Micah 4:13 Arise and thresh, O daughter of Zion, for I will make your horn iron, and I will make your hoofs bronze; you shall beat in pieces many peoples; and shall devote their gain to the Lord, their wealth to the Lord of the whole earth.** What those verses show us is that this is clearly not an instrument, but a weapon of war, compared to the horn of an animal. Our redemption comes because Jesus, our horn of salvation, makes war against sin on our behalf. He did this by his

death on the cross and resurrection from the dead. This was his war against sin that makes 1 Corinthians 15:55-57 possible, “O death, where is your victory? O death, where is your sting?” 56The sting of death is sin, and the power of sin is the law. 57But thanks be to God, who gives us the victory through our Lord Jesus Christ.

The question that could cross your mind now is, “how do we know that this is talking about Jesus?” Zechariah shows us that as verse 69 continues. **“69 and has raised up a horn of salvation for us in the house of his servant David, 70 as he spoke by the mouth of his holy prophets from of old, 71 that we should be saved from our enemies and from the hand of all who hate us;** In this part of Zechariah’s song, it is clear that he is talking about the Messiah, not his son at this point. This will become even clearer at the end, when his focus does turn to his son. But to any Jewish person hearing this, they understood these words to refer to the Messiah, the Savior that they had waited on for centuries, who was prophesied by many of the Old Testament prophets. One of those key prophecies said that the Messiah had to come from David’s line. One place we read that is [Psalm 132:11-12](#), [The Lord swore to David a sure oath from which he will not turn back: “One of the sons of your body I will set on your throne. 12 If your sons keep my covenant and my testimonies that I shall teach them, their sons also forever shall sit on your throne.”](#) We know from the history of Israel that David’s sons did not follow God, so the Messiah to the Jewish understanding of that day would reestablish the throne of David that currently did and does not exist any longer. They misunderstood the type of King Jesus would come as during his time on earth. But in order to truly be the Messiah and capable of our salvation, then Jesus had to fulfill prophecy regarding being from the house of David. And guess what? Jesus was! In Matthew 1, there is a genealogy for Jesus that ends this way in [Matthew 1:16-17](#), **“and Jacob the father of Joseph the husband of Mary, of whom Jesus was born, who is called Christ. 17 So all the generations from Abraham to David were fourteen generations, and from David to the deportation to Babylon fourteen generations, and from the deportation to Babylon to the Christ fourteen generations.** Salvation would be provided in fulfillment of prophecy, and Jesus was the fulfillment of that prophecy.

If our salvation was prophesied hundreds of years before Christ was born then it was not just something thought up by God at the last minute or even a secondary plan to save humans when they failed to obey him. Instead as Zechariah’s song continues, we see that salvation was the fulfillment of a long established covenant. Verse **72 says, to show the mercy promised to our fathers and to remember his holy covenant, 73 the oath that he swore to our father Abraham,** This horn of salvation – Jesus – came in order to fulfill the covenant with Abraham, where God said that all the earth would be blessed through him. And we can trace the idea of this covenant with Abraham and a coming redeemer or Messiah back to the Garden of Eden itself. When Adam and Eve were punished God told Satan in [Genesis 3:15](#) **I will put enmity between you and the woman, and between your offspring and her offspring; he shall bruise your head, and you shall bruise his heel.”** So, when God tells Abraham that he will bless the world through his offspring, his descendants, it is with this promise in mind. That redemption focus is the entire point of the Old Testament that is pointing to the coming of the Messiah of Christ. Zechariah is recognizing that in this song. What an amazing salvation we have! What an amazing God we have, who carefully unfolded this plan through his providence by using covenants or promises to act in a certain way with certain groups of people. All to provide salvation for those who are his own chosen people.

And there is a point to our salvation. For too many, salvation stops there. God chose me, and now I can be with him in Heaven. Yeah, God! But, our salvation is not a get out of hell

free card. Salvation frees us from sin so that we can reflect God in righteous action and serve God without fear of humans. Zechariah gives us this complete picture of salvation as verse 73 ends ...**to grant us 74 that we, being delivered from the hand of our enemies, might serve him without fear, 75 in holiness and righteousness before him all our days.** Salvation frees us to serve God fearlessly and righteously. If we have true faith in Jesus Christ, and have accepted him as our Savior and as our Lord, which must happen for salvation, then it will, it must change our lives. **1 Peter 4:1-2** describes this life change in this way. **4 Since therefore Christ suffered in the flesh, arm yourselves with the same way of thinking, for whoever has suffered in the flesh has ceased from sin, 2 so as to live for the rest of the time in the flesh no longer for human passions but for the will of God.** So, with salvation comes a freedom from sin that allows us to live in fear of God, meaning obedience to his will and purpose. If we are living in obedience to him, then we do not need to fear what humans and circumstances can do to us.

It was this level of obedience in living out his salvation that Zechariah now goes on to prophecy for his own son, John. John would become who we know as John the Baptist, the forerunner who introduced Jesus Christ as the true Messiah to the Jewish world. Read verse 76. **76 And you, child, will be called the prophet of the Most High; for you will go before the Lord to prepare his ways,** Everything up to this point was actually prophecy of Jesus, and only now at the end of his song, does the prophecy turn to his actual son, John. In the book of John (not the same John) Chapter 1, John the Baptist is described with basically these same words. **John 1:6-8** says, **6 There was a man sent from God, whose name was John. 7 He came as a witness, to bear witness about the light, that all might believe through him. 8 He was not the light, but came to bear witness about the light.** The message of Zechariah's song is focused on the unbelievable greatness of our salvation. But God has always used humans to share the message of his salvation with others. Even with Jesus himself, the focus of that salvation, God provided a messenger to point people to that truth. Now, I try to constantly point out the truth from scripture that salvation is start to finish a work of God. He chooses who will be saved and it is his Holy Spirit that regenerates a person and gives them faith leading to repentance. But there is a truly amazing verse in **Romans 10:14. How then will they call on him in whom they have not believed? And how are they to believe in him of whom they have never heard? And how are they to hear without someone preaching?** God uses the weakness of human preaching, we could say humans declaring the gospel to others, to open their spiritual eyes to understand and accept the gospel of Jesus Christ. God doesn't need us, but God wants to use us as his messengers in this process. That is the normal way how people hear about his salvation.

That is the main point of this focus by Zechariah on his son. But I want to quickly make one more point of application here for parents. Zechariah clearly wanted his son to follow God's plan. Even for Christian parents, it seems like many times we are reluctant to truly want God's will for our children. Zechariah had no way of knowing what this would mean for his son. Ultimately, it meant that John would be rejected by society, imprisoned by the local Roman ruler and his life would end with beheading. All because he followed God's will. Are we as parents actively encouraging our children to pursue God's will with every part of their lives? Do we encourage their participation in church in the same way that we encourage their participation in sports or in making the best education choices? Ultimately which of those things is important for their eternity, not just their adult life? Jesus says in **Mark 8:36, "What does it profit a man to gain the whole world and forfeit his soul."** I fear that many Christian parents are setting their children up to gain the world, but spiritually lose their souls. Children can see the lack of emphasis we as parents place on their discipleship as

many other things, good things, take the place of the best thing, getting to know and love Jesus Christ.

Then Zechariah tells us what the content of the message that his son John and we will be entrusted with is. **Verse 77** says, **to give knowledge of salvation to his people in the forgiveness of their sins**, This message of salvation includes two basic concepts – sin and forgiveness. We cannot leave either out. A message that is only “God loves you and wants a relationship with you,” but never talks about why we do not have a relationship with God, is a false message. The reason people need salvation is that as **Romans 3:23** says, **All have sinned and fall short of the glory of God**. And our message is not just judgement. You are a sinner that God condemns under his wrath. Focusing only on God’s love or only on God’s wrath is not the gospel. These two go together. There is a strong push in postmodern evangelicalism towards what J.I. Packer has rightfully called “Santa Clause theology.” In other words, God is basically a big happy guy in the sky who gives out good presents to everybody to make everybody happy. That view limits God. In seeking to make God a God of love, they have made God into a weak likeness of humanity who is incapable of dealing with real life. Humans don’t need Santa Clause, they need a savior. A God who overlooks sin and just doles out good in the face of evil is no god at all.

When a person responds to the real gospel that proclaims how truly terrible our sin is, but how good our God is, that person will experience the results of salvation that are seen in the final two verses of this song, verses 78-79. **78 because of the tender mercy of our God, whereby the sunrise shall visit us from on high 79 to give light to those who sit in darkness and in the shadow of death, to guide our feet into the way of peace.** Today, our Advent focus is love. It is the love of God for his children that is completely evident in salvation. We are sinners, or as Paul describes himself in **Romans 7:24**, **wretched**. ²⁴ **Wretched man that I am! Who will deliver me from this body of death?** In our natural state that we are born in without accepting Christ as Lord and Savior, we are in spiritual darkness and at war with God. But God in his love poured out his undeserved kindness on us, his mercy. Because of that mercy, we are forgiven of our sins, given a peace treaty with God that not only restores our relationship, but makes us his adopted child, and we can live our lives in the light of Jesus Christ. We can live our lives by his righteousness and not our own sinful past. This is why Paul answers his own question in from Romans 7:24 in verse 25, ²⁵ **Thanks be to God through Jesus Christ our Lord!** What a great salvation we have! What better reason do we have to celebrate Christmas than the love of our God who so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life. [John 3:16]. Let’s pray.